

II 特別連載 II

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第259回

2020年初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、来日プログラムが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。その中から2件のレポートを紹介する。

東北大学の活動報告

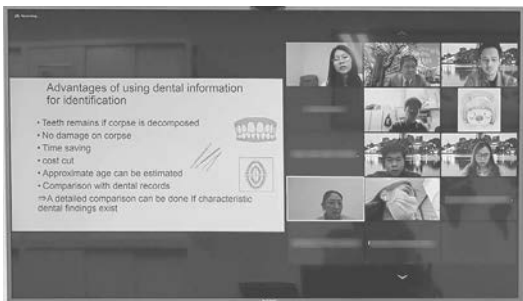


洪 光
(東北大学大学院歯学研究科
国際連携推進部門教授)

コロナ禍における国際交流活動

— 中国とのオンライン交流 —

東北大学大学院歯学研究科では、2018年にさくらサイエンスプログラム複数年度計画に採択され、2020年10月7日から3年目の交流計画を実施する予定でした。しか



災害歯科講義

し、新型コロナウイルスの世界的流行により国際的往来が不可能となり、本プログラムの実施も危ぶまれる状況でした。そこへJSTからオンライン実施に関する案内が届き、期間短縮にはなりませんが、2020年12月7日から9日



参加者集合写真

まで、本年の交流計画を東北大学大学院歯学研究科国際短期交流プログラムとの連携のもと、無事オンラインで実施することができました。

今回はさくらサイエンスプログラムとして中国の歯科基幹校である北京大學口腔医学院、四川大學華西口腔医学院、天津醫科大學口腔医学院および福建醫科大學口腔医学院の歯学生10名が参加し、さらに歯学研究科国際短期交流プログラムとしてインドネシア、台湾、タイ、中国の歯科大学から19名の学生が参加して、オンラインによる日本の再生医学研究・災害歯科に関する教育および歯科材料に関するセミナーを行った。

3日間の研修期間中、大型地震など災害が起きた際、身元確認、被災者の口腔ケア等における歯科からのアプローチについて、デモンストラーションを行いながら講義を行った。さらに、新型コロナウイルス感染症予防策について歯科の観点から紹介を行った。再生医学研究については歯牙、歯槽骨、歯周組織、神経組織の再生、生体材料表面への組織再生について、基礎に関する知識について普及を行うとともに、ES細胞、iPS細胞、骨芽細胞などが異なる培養環境における挙動につ



ドンナイ技術大学とオンラインで交流

7日間の日程で、「地域療養を支える在宅看護の実践」というテーマでドンナイ技術大学より学生と引率を含む11名を招へいし、日本の地域で生活する療養者と在宅看護の実際を体験してもらい準備をしていました。コロナ禍により今年度オンラインによる交流に切

短い時間ではありましたが、ドンナイ技術大学および日本医療科学大学の看護学生や教員の交流も深まり、参加者全員にとり、有意義なプログラムとなりました。本プログラムを支援していただきました「さくらサイエンスプログラム」およびプログラムの実施に当たってご助力を賜った多くの方々には厚く御礼申し上げます。

◇
両大学にとつて、このようなオンライン交流の試みは初めてで、学生生活や医療体制についてパワーポイントを使用して発表し、意見交換ができました。ベトナムの学生は、日本の看護教育に非常に興味を持っている様子で、学内演習と病院実習についての、利点・欠点についての質問や実習は4年間でのくらしいあるのか等質問していました。日本での看護技術の修得についてわずかではあるが、イメージを持ってもらえるきっかけになったと思われま

ドンナイ技術大学
ベトナムとのオンライン交流
2020年10月23日に学術協定先であるベトナム・ドンナイ技術大学の学部学生33名と日本医療科学大学保健医療学部看護学科の学生52名がオンラインによる交流を行いました。本交流では、「Covid-19における授業や実習への影響」ならびに「医療従事者になる上で、Covid-19による意識の変化」について意見交換しました。
当初の予定では、11月1日から7日までの



風間 みえ
(日本医療科学大学
保健医療学部看護学科長教授)

日本医療科学大学の活動報告

て詳細に講義を行った。さらに、細胞の培養方法、細胞染色等についてもデモンストレーションによりレクチャーを行い、講義効果を高めた。
最終日は日本最大の歯科材料・器械メーカーである株式会社ジーシーより、高齢社会における口腔機能評価・改善における取り組み、機材の紹介・デモンストレーションを行い、高齢社会における歯科の取り組みの必要性に

◇
についても学習した。
新型コロナウイルス感染症流行による様々な国際交流プログラムが軒並みに中止・延期になる厳しい環境の中、このようなオンライン交流のきっかけをつくって頂いた「さくらサイエンスプログラム」に深く感謝いたします。



日本医療科学大学による演習に関する発表